



2015年、
しらいほポロコタン
開設50周年。



こたんめーる

82号



2015年11月1日 発行

〒059-0902

北海道白老郡白老町

若草町2丁目3番4号

Tel 0144-82-3914 Fax 0144-82-3685

一般財団法人アイヌ民族博物館

\\ アイヌ民族博物館からのご案内 //

オルシペ アヌロー！ 物語を聞いてみよう！

日時：2015/11/14、11/28、12/12、12/26

(第2・4土曜日)

14時定時公演終了後～約20分間

場所：ポロチセ

参加費：無料 ※別途入場料(白老町民は入場無料)

チセの中で囲炉裏を囲み、当館職員によるアイヌ語での「語り」を体験できます。各口演ごとに語り手も内容も異なります。神謡(カムイたちの物語)や英雄叙事詩といったアイヌの伝統的な物語の世界をぜひお楽しみ下さい♪

ミュージアムショップ「イカラカラ」より



【販売価格】300円

大きさ：直径57mm

9月に入荷した新商品です

マグネット

「当館オリジナル缶バッチ」と同シリーズのマグネットで、「ヘカチ(男の子)」と「マッカチ(女の子)」の2種類があります。来館記念におひとついかがですか？

マキリの鞘作り体験

マキリ【小刀】は、山へ行くとき、川へ行くとき、彫刻にも、獲物の解体にも使う、万能で大切なモノ。

アイヌ文化に触れ、自分用のマキリの鞘作りマキリに挑戦しませんか？

日時：2015/11/22(日)・23(月・祝)

1日目10～16時 2日目9時半～15時

※終了時間は前後する場合があります。

会場：アイヌ民族博物館 体験学習館

講師：浦川 太八氏(北海道アイヌ協会伝統工芸師)

対象：中学生以上 ※未成年の場合、保護者の同意書が必要となります。

定員：12名

参加費：ひとり/6,500円 ※保険料・材料費込

締切：2015/11/20(金)17時まで

持物：皮手袋、エプロン、昼食。根付に使いたいものがあればご持参ください。

※お昼は、カフェリムセでもお食事いただけます。

秋のコタン/ミ(集落の祈り)

日時：2015/11/1(日)10:30～

場所：ポロチセ

年に2回(春と秋)行われるコタンの

大きな儀式です。自然の恵みに感謝

し、皆が健康に生活できますようにと

祈ります。また、シンヌラッパ(先祖供養)や、チブヤン

ケ(舟の引き上げ式)も行われます。翌日にはオメカブ(後

祭り)をします。どなたでも見学できます。



アイヌ語入門講座

日時：11/13、11/27、12/11、12/25

17:30～19:30

場所：博物館1階 映像展示室

参加費：無料

対象：一般

主催：アイヌ文化振興・研究推進機構

カルタをしたり、映像資料や実際の民具を見たりしながら、アイヌ語だけではなく伝統的なアイヌ文化について楽しみながら勉強します。



※写真はイメージです。
作った鞘は柄と刃物もあるマキリとして
お持ち帰りいただけます。



Facebook、Twitterでも情報をご覧いただけます。
コタンメールはホームページへも掲載しています。

URL: www.ainu-museum.or.jp
編集/発行: アイヌ民族博物館 学芸課

ウトゥカンニ utukanni

イナウ（木幣）の材として

真上から見た
チエホロカケイナウ



アイヌの人たちの生活に必要な民具は、ほとんどが動植物などから作られています。博物館の常設展示や、チセ内外では、実際に使用している祭具として、太さ3cm程度の樹木の幹を切り、樹皮を剥き薄く削ったものや、削りかけが見られます。これらはイナウと呼ばれ、儀式のときなどに神へのお土産として、捧げるものです。

イナウに用いる樹種はいくつもありますが、木肌が白く美しいミズキもその一つです。ミズキや、ヤナギの仲間で作ったイナウは神の国へ行くと銀に変わるといわれます。他の木で作ったものも素材に応じて、神の国へ行くと金や銅へ変わるといわれています。

また、北海道の西部ではイサパキクニというイナウの一種とされるものがあります。捕獲したサケを叩き、とどめを刺す道具であるとともに、サケが神の国に持っていくものとされています。石や腐った棒切れで叩くと神が怒り、魚が獲れなくなるといいます。白老では主にイナウと同じミズキの木を使います。

イサパキクニの出来るまで



④端を切り落とし完成!



材料のミズキは、サケの遡上時期に合わせて用意する。幹を採取し乾かすが、乾きすぎると適さない。材料の形や状態を見ながら作っている。



ミズキ ミズキ科

学名: *Cornus controversa hemsley* 英名: Table dogwood

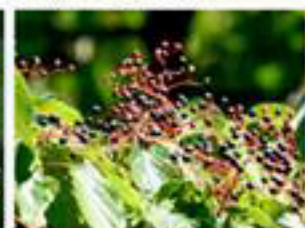
春先、枝に水分が多く含まれていることが「水木」の名前の由来といわれています。高さ15~20mになる広葉樹で、山地や肥沃な林地の湿気のあるところを好み、ポロトコタン内、ポロト自然休養林でも見ることができます。

若木の成長は早く、街路・公園樹にも利用されます。材としては硬めで、耐朽性は良いとは言えませんが、加工しやすく、宮城県の鳴子こけしなど、器具や玩具の材として利用されます。



正月などに使う祝い箸は、ヤナギやミズキの仲間も材として用います。

枝を広げ、階段状とも、羽状型ともいわれる樹形が特徴です。夏には白く小さな花（散房花序）が上向きにつくことでひときわ目を引き、他の樹木に囲まれた緑一色の中からも見分けることができます。



花 6~7月
白色で径6mm

実 9~10月
熟すと黒くなる



裏面は白っぽい。
5~9対の葉脈が隆起し、弓形に曲がる。



観察



秋から春までの森歩きで、楽しみとなるのが冬芽、葉痕、維管束痕の観察。ルーペでのぞくと木の「顔」が見えてきますよ!



あたりに雪が積もると、その年に伸びた紫紅色の枝が輝いて見えます。

冬

独特の階段状の樹形